

Footprint フットプリント

写真資料調査
部会発行
H27.6.1.

2015年
第19号

被爆七十周年「ナガサキ原爆写真展」開催

期間・2015年7月22日～8月3日

会場・長崎市立図書館 多目的ホール

写真資料調査部会が企画し準備を進めていた「被爆七十周年 ナガサキ原爆写真展」の開催が決まりました。

開催期間は7月22日(水)から8月3日(月)までのおよそ2週間、会場は長崎市立図書館

書館、主催は写真資料調査部会、(公財)長崎平和推進協会、長崎市立図書館の三者です。

今回の写真展の特色は会場が長崎原爆資料館を離れ、市中心部の長崎市立図書館で開催することです。写真資料調



被爆60周年「ナガサキ原爆写真展」の会場風景
(平成17年8月 長崎市民会館)

査部会が市中心部で開催する大型写真展は、被爆60周年「ナガサキ原爆写真展」を長崎市民会館で開催して以来10年ぶりのことです。

展示写真はおよそ120点を予定していますが、今回の特色は大型のパノラマ写真を多用することです。最も大きいものは横幅5.4m、縦90cmの城山町高台から城山国民学校、山里国民学校、鎮西中学、遠く浦上天天堂、長崎医科大学、医大附属医院等、爆心地を中心に2kmあまりの範囲を写した大型写真です。詳細な被爆状況が一目瞭然です。

今回は市内中心部での開催ですので、長崎県庁、裁判所等主要官庁の廃墟を写した小川虎彦氏の写真20数点を展示します。小川氏の写真はこの他に

に浜屋デパート、岡政デパート、映画館、電気館、唐人屋敷土神堂等の原爆による破壊、あるいは火災により被害を受けた主要建物のそれぞれの被害状況が撮影されています。被爆

長崎市 深堀好敏部会長を市政功労で表彰

今年の長崎市表彰式が4月1日、長崎ブリックホールであり、市政発展に貢献した市民や市出身者95人と13団体が表彰された。教育文化や社会福祉などで20年以上の功績がある「市政功労表彰」と10年以上の功績がある「市政協力表彰」、芸術やスポーツで優秀な成績を収めた「特別表彰」がある。受賞者は田上富久市長から

感謝状を受けとった。「市政功労表彰」を受けた長崎平和推進協会写真資料調査部会長の深堀好敏さん(86)は「自分のやってきた裏方の仕事が認められるのはありがたいですね」と話していた。



右写真 表彰状を受け取る

深堀部会長

また昨年6月に長崎原爆資料館がアメリカ国立公文書館で収集した長崎原爆関連カラー写真20点余りも展示します。

(担当・堀田武弘)

毎日新聞・竹内麻子記者の記事を転載させていただきました。

原爆が投下されてからおよそ一ヶ月後に、読売新聞記者が長崎に入り、廃墟となった長崎の街、混乱する長崎の街をレポートした。進駐軍のプレスコードが発する前、現地レポートの当時の記事は珍しい。同記事は読売新聞(昭和20年9月10日)、長崎新聞(9月15日)の二紙に掲載された。

原子爆弾一ヶ月後の現地 被爆者続々と死亡

絶えぬ街の火葬 神の試練に起つ聖教徒

ただ赤黒く焼けただれた瓦礫の林だった。

永野県知事(*原爆当時の長崎県知事)が貸してくれた青写真を見ると、浦上駅から

長崎線が長崎駅に入る一つ手前が浦上駅である。線路に沿って逆行すると、すぐ右手の丘の上に浦上天主堂の残骸が見えた。左の線路向ふは三菱製鋼、三菱造船、三菱兵器などの巨大な工場街、周囲を標高五百メートル位の山がぐるりと取り巻いている。

まず工場街はひん曲がった鉄骨が高く低く累々と横たはった死の廢墟。普通の家はみな小さなごに砕け散った木片、瓦礫の死の街、周りの山々は季節の早い紅葉と見紛ふ程、どこまでも

があると聞くと、一切の生物〇いものを失った眼前の沈黙の世界は不気味を通り越し〇つしくさへなる。

人影の絶えた通りを数メートル北に進むと、崩れ落ちた天主堂の廢墟が三段構への高い石垣の上に、見るも無残なその全貌を現した。原子爆弾の直下地点から直距離にして五百メートル、高い丘陵の上に離れた石と煉瓦の建物だったので火災は免れたが、砕け散った大きな煉瓦の塊(かたまり)が、広大な敷地一面に散乱して足の踏み場もない。一つの尖塔は敷地の中央に逆さになって陥落、もう一つの尖塔は裏側の五十メートルもある崖の下にころがり落ちていた。西側の入口の所を僅かに残し建物の九割五分まで崩壊し、部屋の形を残して

「激動を越えて一世紀」より

クでは牧師とは言わない。神父と訂正)と門番、小使いの他、信者四十人がいたが、みな崩れ落ちた建物の下になって即死し、すでに一ヶ月近くになるのに死者の発掘に手がついていない。

鬼哭啾々(きこくしゅうしゅう)たる正面入口に立つて犠牲者の冥福を祈る記者の足許に、一丈五尺位もあるキリストらしい大きな石像が転がっていた。はっとして足を引くと、この石像は首がない。帰途上り口の石畳の上に発見した首は、髭ひげの先をちよつと傷めただけで奇蹟でも起ったやうに真っ直ぐに立ち、真赤な夕陽を真正面に見つめていた。

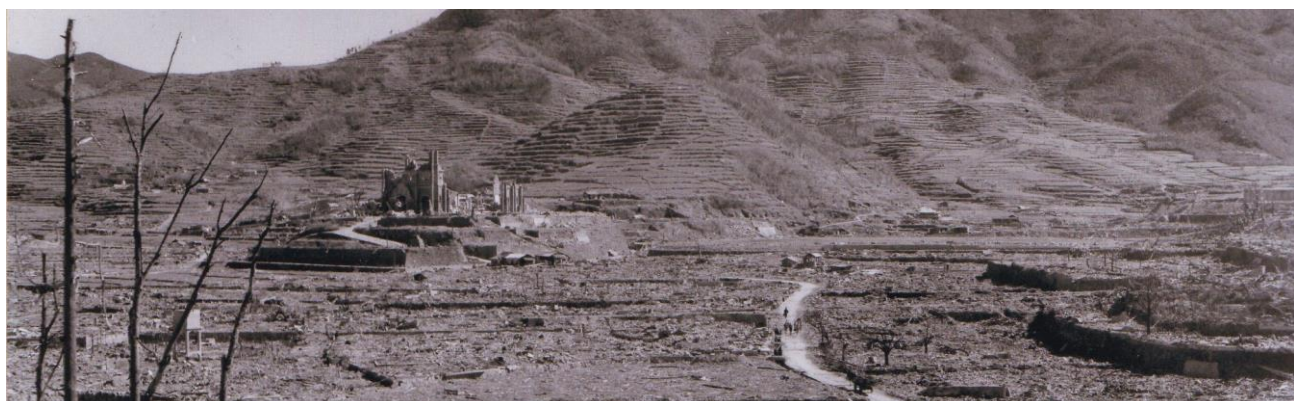
*注 当時の長崎新聞社は終戦前後の一時期、読売新聞社と協力体制にあった。

(長崎新聞社社史)

ふ。足許の一塊の土にも中性子やラジウムのガンマー線エックス線のやうな放射反応

主管・西田三郎、同補助司祭・玉屋房吉師の両神父(*記事は牧師となっているが、カトリック

(次ページへ)



浦上天主堂方面の廢墟 1945年秋
(米国立公文書館所蔵写真)



浦上天主堂正面 レンガ建物も強烈な爆風で崩壊



中央に崩落した鐘楼が見える



高尾川に崩落したもう一つの鐘楼
現存し、登録記念物となった



南側の壁面 左端部分が爆心地に移設保存

この記事の転載にあたり
長崎新聞社、読売新聞社の
協力をいただきました。

(宮本、押田両讀賣特派員記)

よるものであるかも知れない。我々は世界の人達と共に
広島、長崎の市民に折角救護
の手を差し伸べ、原子爆弾の
今後について根本的解決を提
唱するものである。

てほっとし、好きな音楽を練習しているうちに吐氣が来て絶命した。これは二人とも永野知事の話だが、いま田川師から聞く話をもっとひどかった。「両親を亡くした八歳を頭に三人の子供をけふも訪ねたところ、三人とも頭髮が抜けてはじめて蒼い顔をしているのに元気で遊んでいた。父親をなくして唯一人残った十九歳の娘が二、三人の信者に看取られ死の床に苦しんでいるのを、今も安心して昇天するよう慰めてきたところだった。」

偶々坂の石畳の上に立つと
数か所に死体を焼いている火が見えた。一番近いその火の一つから黒い日傘を差した三人の影がはなれて、こちらに近付くのが見えたので急いで坂を下って三人を待った。田川伊勢松、浜田朝松といふ二人の聖教会神父と畑中栄松という神学校教授であった。
三人はあの日以来、重傷を負って死亡していく信者の死の床を巡回し、一日に二十人から三十人位の人に昇天の祈禱を捧げて歩いていったといふ。
田川神父はいふ。「だるくな

って高熱を發し、咽喉がはれて食物が通らなくなり、やがて頭髮が抜けはじめ嘔吐を催し、肌には赤い血の斑点が現れるともう助からぬ。この血斑点が現はれてくると丈夫な人なら五日くらい、弱い人だと数時間の中に死亡するやうです。爆圧で負傷したり、熱波で火傷を負った重傷者なら兎も角、もう傷も癒り、火傷も癒えて元気で働いていた人が、今かういふ症状を呈して後から後から殮(たお)れて行く、これは重大問題です。」炸裂当時、浦上地区(直

徑三キロ)にあった者は軽傷ですつかり良くなっている者もあるが、大部分は負傷以外に内臓を壊されていると判断される。天主堂と並んだ丘の上にある長崎医大の或る助手は、原子爆弾で臀部に負傷したが、引き続き救護に活動しているうち、やっと負傷も快癒したが、数日前に急に嘔氣を催し、きれいに爪を切った自分の手を食道まで入れて、大きな器物に三杯ほどの吐瀉(としや)物を出してそのまま急に息絶えた。同じ場所に働

いていた看護婦は火傷が治つ

ては

戦争は終わった。我々はボツダム宣言を如何なる国民よりも忠実に実行する勇氣を持っている。しかし、この原子爆弾が戦争の終わった現在、なほ、かういふ猛威を振るっている事実を、アメリカは因より世界人類の前にはつきりさせたい。八月十五日の“聖母の被昇天祭”を迎へ、その準備のために何組にも分れて天主堂で個人的な懺悔をはじめている浦上の聖教信者の多数が、一万人といふ数を纏めてこの人類未曾有の神の試練に起たせられた意味は、或いは人智では計り難い神の意志によるものであるかも知れない。我々は世界の人達と共に

原爆投下から一ヶ月 廃墟の街の慰安娯楽施設

映画演劇 浴場 理髪店 花街 商店街の復旧

「長崎新聞」昭和20年9月16日

長崎新聞

昭和20年9月16日

長崎が未曾有の戦禍を受け一ヶ月余り、復興長崎の息吹にはかなりの活気が動きつつあるが、現実の復興面は案外遅々としてはかどってゐない。

これには原因するものが種々とあるが、家財を焼かれ肉親の多くを失った長崎市民の復興が予想外に遅く、一面には現実の労務資材等、復興資材の不足に祟られてゐるのは事実だが、また一方には進駐軍受入れ開放、連合国軍人輸送等に当局自体が〇〇されてゐることも大きく働いてゐるといへよう。だが一刻も早く起ち直り復興せねばならぬ長崎市だ。

以下に明るい復興長崎の前駆たる慰安娯楽施設の面の復興〇をのぞいてみた。

映画演劇

長崎市内の映画常設館、及び演芸場のすべて、ほとんど全部が大壊してゐるので、復興は当局の予想よりぐーんと遅れてゐる。県で業者を督励し復興資材及び労力を積極的に斡旋し努力してゐるが、現在の見通しでは比較的損害の軽かつた喜楽館、及び宝塚劇場、第一映画劇場の三つが概ね今月一杯には復興完成の見込みである。

浴場

一方、戦災以降、県は映画会社の協力を得て移動映画の公開を行つてゐるが、天候、場所等の関係でかんばしい成績はあがつてゐない。

全市九十軒の浴場のうち現在わずかに四軒、それも大浦方面だけの浴場が営業を開始してゐるといふ惨憺(さんたん)たる状況。もつとも九十軒のう

ち五十軒は完全に焼失、または倒壊して復旧不能である。県では残存四十軒の早急復旧を計るため、既に組合側を督励して〇〇してゐる業者の呼戻しをはじめ、材木、瓦等の資材、及び労力の優先提供による復興促進を図つてゐるが、業者中に復旧可能な施設を有しながら利己的に復旧しない者に対しては、営業停止、その他の手を打つ方針である。

理髪店

全市約百五十軒の業者の内、現在営業中のものは三十四軒、他の業者は家屋を焼失、あるひは倒壊したり、施設物に相当の損害を蒙つてゐるものも多いが、この面にも復旧資材、労力の優先措置斡旋を行つて復旧に拍車をかけてゐる。

花街

この方は当局の積極的斡旋と業者の熱意が利いて、貸座敷の方は戦災前と同数の二百六十八軒が既に営業を開始してゐる。一方料理屋も全部復旧

街

営業しており、この面の復旧は明るく快速調である。

戦災のため荒廃し暗澹たる表情を呈した街の復興には、建設本部を中心として猛活動を行つてゐるが、差し当たつての街路の清掃には、長崎中学をはじめ学徒が協力奉仕して着々と明るさと清潔さを取り戻してをり、道路の待避壕は急速にうめてしまふやう当局では要望してゐる。

なお街灯は極力点灯するやう〇〇してをり、連合町内会を通じて相当数の電球を配給した。



蜷茶屋の電車車庫
深堀部会長はこの付近で被爆した



浜の町・旧大丸そば十字路口、100円ショップ
ダイソー付近



十人町唐人屋敷土神堂(場所は現在と同じ)



電気館跡 浜町S東東とアーケード街の間にあつた
映画館